の高峻と、眞宗の道德の謙退とは、亦遂に一致に歸するなり。其一致に歸する點とは、曰く「唯一の無私のみ、」夫の誠拙和尙の受けて謝せざるは、之れを私有視せざればなり。蓮如上人の受けて之れを拜するは亦之れを佛物視すればなり。是れ皆私心の有あれは能はざる所なり。既に夫れ無私なり、故に受くる所の信施を自己に於て受用するに當りては、兩宗の高僧大德、共に同じく丁重に丁重を加へ、戒愼に戒愼を加へて、一菜一紙の微に至るまで、濫に之を費さず、恰も相約して之を履行する者の如し。今亦其の例を擧ぐれば美濃の正眼寺泰龍和尙は平素滴水滴湯だも、之を濫用せず、盛夏の時に於ても僅に一杓の湯を以て體を拭ふのみ。一日園中を徘徊して菜葉の遺れる者、一二片あるを見る。翌日講話のとき、雪峰菜葉の因緣を擧げて弟子を呵責して曰く「福德を愼まざる者は、予の門下に留まるも、何の益か之れあらん、疾に去れ」と、即日に菜葉を棄てたる者を放逐せりと謂ふ。又『蓮如上人一代記』

に曰く「蓮如上人御廊下を御とほり候て紙切のおちて候ひつるを御覽ぜられ、佛法領の物をあだにするかと仰られ、兩の御手を以て御いたゞき候」と、蓮如上人にして、此の事あるは、固より怪むに足らずと雖も、禪僧たる素龍和尙にして、亦此の事あるは、最も感ずべきなり。蓋し亦己を忘れて道を思ふ、即ち所謂無私心の致す所なるのみ。

三

抑道德の本領は、無私にあり。苟も無私ならざるときは、偶々一言一行の形跡上に於て高峻若くは穩和なること、古の高僧大德に似たる者ありと雖も、其の心情を細察するときは、其の高峻は即ち傲慢の變象、其の穩和は、即ち鄙屈の變相にして、道德の本領と相距ること甚だ遠し。熟熟現今の僧侶社會を觀察するに、何宗を問はず、未だ此の二者を超ゆる者あるを見ざるなり。此の二者は猶は恕すべし。此の二者にだも未

た及ばずして、傲慢若くは卑屈を以て自ら安じ、恬然として慚ざる者、十中に八九なり、豈に慨嘆の至ならずや。

四

更に眸を轉じて、彼の政治家と稱する者の情狀を觀るに、是れ亦或は高峻卓厲禪侶の如き者あり。或は平易穩和眞宗僧の如き者あり。然るに是れ唯形跡のみ、其の中心は、亦同く私慾を以て充塞したれば、夫の高峻卓厲なるものは、其の實剛腹悖戾にして、平易穩和なるものは、其の實阿諛諂佞にあらざるなし。彼れ等の眼中に、皇室もなく、國家もなきは猶ほ現今僧侶の眼中に、佛祖もなく、宗旨もなきと同一般のみ。嗚呼、道德の衰へたる蓋し今日より甚しきはあらざるなり、是の時に當りて、眞誠の道德を修するものあれば其の事は古人に半にして、其功は之に倍せん、世上、何ぞ此の大慾を起す者の鮮なきや噫。

明治四十一年二月十五日印刷
明治四十一年二月二十日發行

不許複製

(定價金參拾錢
郵稅金四錢)

著作者　濱口惠璋
發行者　京都市油小路御前通上ル　清水精一郎
印刷者　京都市木津屋橋堀川東入　井出時秀
印刷所　京都市木津屋橋堀川東入　六條活版製造所

發行所　京都市油小路御前通リ上ル　興教書院
(振替口座四一一三番)

文學博士前田慧雲師
翠　村濱口惠璋師共編　●新版

佛陀之處世訓

●總かなつき●總革三方金特製壹圓卅錢
●總クロス上製金七拾錢●郵税各八錢宛

本書は大藏經中より佛陀世尊の訓誨廿餘種の經典を撰び其全文を和譯し以て一經の組織を明かにし宗教信念、世界觀、人世觀、倫理即ち人生に切實なる處世上の教訓を示し健全なる道德的觀念を發達せんとするにあり。

文學博士井上哲次郎氏序說
文學博士前田慧雲師序
●男爵二宮尊親氏書翰●慈劍佐藤巖英師述

二宮尊德翁と佛教（三版）

●通俗平易●定價五拾錢郵税八錢

二宮尊德翁の報德主義と翁が實踐躬行の成功事蹟を佛教徒に傳ふる好著は未だあらず、本書は大乘佛教實行者としての尊德翁●翁の時代と生涯●翁と觀世音●翁と不動尊●翁の人生觀●翁の宇宙觀●翁の人道觀●翁の分度論●翁と禪風▲附錄▲農業と宗教の關係▲皇室と農業以上十二席に分ち大乘佛教の教理と翁の事蹟とを經緯し嘗て農會に於て講演せられしもの、是實に帝國民を教養する無一の福音と謂ふべし

三部經通釋

文學博士前田慧雲師
文學士薗田宗惠師序文　翠村濱口惠璋師述

大無量壽經　上卷

上製クロス金文字入
實價　金六拾五錢
郵稅　八錢
實價　金五拾錢
郵稅　金六錢

古來から淨土の三部經に註釋を下した書物は、牛汗棟充も啻あらぬのであるが、多くは煩瑣なる專門的の解釋か、宗義上の穿鑿に拘泥して居つて、その玲瓏たる宗教的情想を捉へて居るものが少ない、本書は嚮きに「心靈上の修養」「曇鸞大師傳」「青年の宗教」等を著はされたる濱口惠璋師が、多年の刻苦精勵によりて、古蒼なる印度的風趣を帶びて居るこの三部經を、通俗的の文字で解釋して、誰が見ても解了することの出來るやうにせられた、貴重なる本であります。

先づ本書の体裁は、經の本文を提擧して、之れに(釋義)と(大意)とに分ちて、一々詳しく解釋せられたものでありますから、經の精神たる宗教上の深奥なる義理は云ふに及ばず、文字上の解釋に至るまで、大小こと〳〵く知ることが出來る、僧侶は云ふに及ばず、未だ宗教の何たることを知らぬ人でも、直ちに經文に就いて、佛陀の說法を、直接に味はふことの出來る有益なる本でありますから、購讀あらんことを、江湖に推薦致します。

◉大無量壽經　下卷　近刊

◉觀無量壽經

◉阿彌陀經　近刊

325
39

文學博士前田慧雲師述
●佛教人生觀●三版 金四拾五錢 郵税六錢
同上
●道味一嘗●二版 同上
前田博士評論●妻木直良師著●四版
●靈魂論 金六拾七錢 郵税八錢
帝國大學佛教大學教授熱田師述●四版
●通俗原人論講義 金參拾錢 郵税六錢
佐々木月樵師著●二版
●佛教之眞髓 金貳拾錢 郵税貳錢
多田鼎師著●三版
●修道講話 金貳拾貳錢 郵税貳錢
河崎顯了師著
●藏經新釋譬喻聖話 金參拾五錢 郵税六錢
前田博士序文●梅田謙敬師著
●眞宗教義一班 金拾五錢 郵税貳錢
翠村濱口惠璋師著●三版
●心靈上の修養 金參拾五錢 郵税六錢
曉烏敏師著●三版
●吾人の宗教 金貳拾五錢 郵税四錢
文學士清澤滿之師著
●佛教講話 金參拾錢 郵税四錢
文學士近角常觀師著
●信仰之餘瀝 金拾五錢 郵税貳錢
富井南軒●茹屋哲公合著
●佛教修養訓 金貳拾六錢 郵税四錢
專門家作曲本譜畧譜八曲●日高純諒師編
●新撰佛教唱歌 金五錢 郵税貳錢
佐藤嚴英師述
●奉公紀念勅語衍義 金拾錢 郵税貳錢
京都市油小路御前通上ル
振替口座四壹壹參
發賣 興教書院